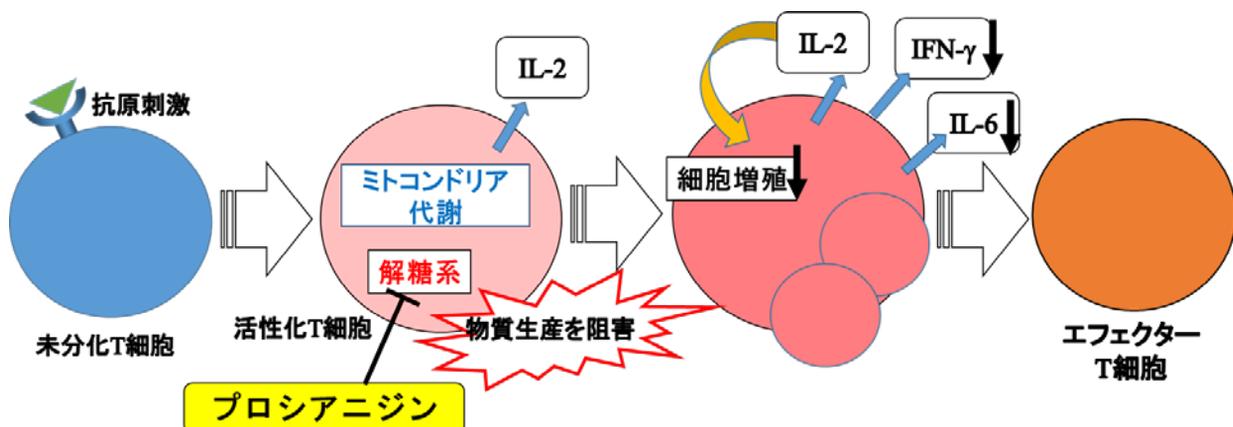


リンゴプロシアニジンの新機能

— 新たに解明された免疫制御機序 —

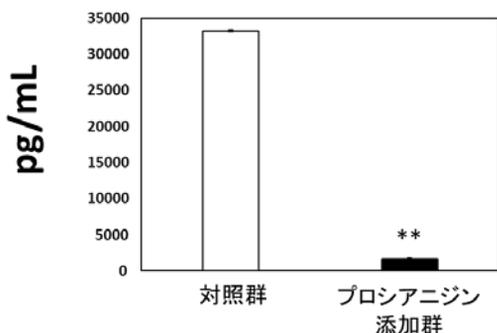
成果の特徴

- リンゴの機能性関与成分プロシアニジンに新たな免疫抑制機能を見いだしました。
- プロシアニジンは多くの免疫抑制剤と異なる作用機序を有することを解明しました。

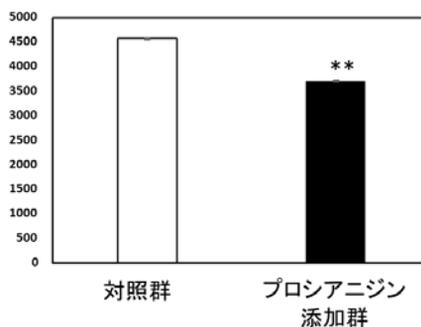


プロシアニジンは解糖系活性の抑制によって免疫応答を抑制する

IFN-γ (炎症性サイトカイン)



IL-10 (抑制性サイトカイン)



プロシアニジン存在下で誘導されたエフェクター細胞では炎症性サイトカインの産生がより強く抑制される

成果の活用

本研究成果は学術論文として公表済みであり、機能性表示食品の届出に必要となる作用機序に関する説明資料の作成に活用できます。

参考文献

Molecules. 2015 Oct 20;20(10):19014-26.

Bulletin of the NARO, Food Research. 2017-03(1):41-45.